

- 1 派遣期日 平成28年11月11日(金)
- 2 研修先 学校名(会場名) 福島市立福島第一中学校
所在地 福島県福島市南町480
http://www.fukushima.gr.fks.ed.jp/?page_id=465

3 研修内容

第55回全国学校体育研究大会福島大会
研究主題
「仲間と関わる楽しさを感じながら主体的に課題解決を目指し、活動する体育授業」

(1) 研修設定の理由

第55回全国学校体育研究大会福島大会が「仲間とともに運動の楽しさを味わい、生涯にわたって運動・スポーツに親しむ資質や能力を育む体育授業」という大会主題のもと、幼稚園、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校とそれぞれの校種における体育授業の在り方について研究協議が行われ、福島第一中学校で公開授業される「球技：バレーボール」と「ダンス」を通して、それぞれの単元での主体的な課題解決の手立てを学びたいと考え決定した。

(2) 研究の基本的な考え方

研究校では、「自主的・自発的で、心身ともにたくましい生徒」を教育目標に掲げ、保健体育科では、仲間とかかわりながら課題解決に取り組む課程において、運動の特性や楽しさに触れることで主体的に運動に親しむ資質や能力が育成されるものと考え、研究を進めている。また、スキルテストやアンケートで実態を把握することで、その実態に応じて課題を設定したり、互いに観察し合ったり、視聴覚機器を使用して動きをチェックしたりすることができている。そして、グループやペアで練習に取り組む場を設定することにより、自分の能力に応じた課題に取り組むことができ、その中で上位生徒が下位生徒に教えたり、動きを見せ合ったりしながら意欲的に練習に取り組むことができ、ペア学習やグループ学習での見るポイントを明確に示すことは、生徒は互いに積極的にかかわり合ったり、改善に向けて話し合ったり、進んで活動する様子が見られてきている。

(3) 研究の内容

①「特色ある年間計画・運動の楽しさを味わい指導内容の定着を図る単元指導計画」
・系統性のある単元指導計画の作成

②「運動・スポーツに親しむ資質や能力を育む指導」

- ・兄弟班の機能を生かした課題解決方法の工夫
- ・ICT機器の活用

(実践しようとする運動について明確な動きのイメージをもたせ、学習意欲を喚起する)

- ・練習方法や技術ポイントを明記した学習資料、学習カードの活用
- ・主運動につながる準備運動と補助運動の実施

③「指導と評価の一体化(授業の改善・子どもの支援に生きる評価)」

- ・1単位時間ごとの達成度を確認できる学習カードの作成と活用
- ・学習者による自己評価や相互評価の実施

(4) 公開授業

【バレーボール】

②「運動・スポーツに親しむ資質や能力を育む指導」

- ・兄弟班の機能を生かした課題解決方法の工夫

2チームずつ組ませ兄弟チームを作成し、そのチーム同士でゲーム分析を行わせるようにした。また、チーム内でキャプテン、分析係、マネージャーといった役割を設け、全員がいずれかの役割を担うようにした。

キャプテン	チームリーダー，チームでの話し合い活動の司会
分析係	ゲーム時の兄弟チームの分析，話し合い活動の祭の分析結果の報告
マネージャー	練習場所・内容の確認，ゲーム順の確認

③「指導と評価の一体化（授業の改善・子どもの支援に生きる評価）」

- ・1時間で1枚の学習カードを作成し（表1），授業のねらいがどのくらい達成されたかを毎時間自己評価できるようにした。その自己評価を踏まえ，次時の学習を行うようにした。また，チームでの作戦やフォーメーションを工夫する場面では，表2の分析表を生かしチーム内での思考の変容や課題に対する解決策が明確になるようにした。

【ダンス】

②「運動・スポーツに親しむ資質や能力を育む指導」

- ・ICT機器の活用

タブレット端末カメラで，兄弟班が撮影したダンスを大型テレビに写し，自分達の動きやフォーメーションの確認をし，自分達の動きを客観的に捉えることにより，共通理解を深めて目指す動き作りに役立てようとした。



【テレビで自分達の動きを見ている様子】



【ボードを使って課題を確認している様子】

- ・主運動につながる準備運動と補助運動の実施

準備運動や補助運動，ストレッチ，基本の4つのステップ（ボックス，ペンギン，ポップコーン，ランニングマン）を取り入れたグループごとのオリジナルウォーミングアップを作成し，毎時間行わせるようにした。カウント係も設けてその生徒をリーダーとしてウォーミングアップを行うことは，ダンスで大切な「互いに息を合わせる」ことにつながると考えた。

4 感想

ペア学習やグループ学習での役割分担が定着していて，自分達で活動する様子が多く見られた。特にバレーボールでの話し合い活動では，キャプテンを中心に進行し，分析係が素早く自分達のデータをICT機器のアプリに入力して課題の分析をして目標を設定していた。また，ダンスの授業においても，ICT機器のカメラで撮影した映像を見ながら，グループ内はもちろんのこと，兄弟班からもフォーメーションや動きの強弱などの改善点を積極的にアドバイスし合う様子があり，改めてペア学習やグループ学習の工夫や，視聴覚機器を使用した視覚から課題を発見して解決する工夫などを学ぶことができた。今後の自分の授業へ生かしていきたいと思う。